

## ステンシルでオリジナルトートバックを作る

ステンシル技法を使い、オリジナルのトートバックを制作する。

提出物:トートバック(完成品)※ステンシルは最大 A4 横まで。

メ切:6月26日(金)17:00 メ切厳守

### 【規定】

- 版は3版以上使うこと。(上限なし)

隣接した部分が違う色になると版を分ける必要がある。(グラデーション以外)

色が異なっても離れている場合には1版で作ることができるので、2版と数えない。

(例えば、隣接する3つの面が違う色である。等)

- インクは布専用のインクを使用します。

普段使用している絵具と色味が異なります。また、下の色が透けやすい色が多いです。

混色はできるので、自分好みの色に調色出来ます。

- 版のサイズはA4横までに収めること。

制作するのは、横長のトートバックになります。地色は生成り(薄いクリーム色)です。

### 【版作成のためのポイント】

- 隣接する面が同色だと図が繋がってしまい、境目が分からなくなります。

輪郭線をつけたり、際をその色の暗色でグラデーションをかけたりすると境目がはっきりとし、図がはっきりします。

- アクリル絵の具のように乾けば上から別の色をのせることができます。

ただし、色の重ね方によっては下の色が隠せない・色が透けて混ざった色合いになってしまう組み合わせもあります。(例:黄色はほとんどの色を隠せない被覆力の弱い色です。)絵具によって被覆力に違いがあるので、実際に摺る前に試し刷りをしてください。

- 版は形がバラバラにならないように「ツリ」を入れる必要がある。

**ツリ**:型紙の外側と内側の部分がバラバラにならないように入れるつなぎ目(下左図の上下に入っているもの)

ツリ有



上下に ツリ(白いつなぎ目)が入っているので  
真ん中の白い部分が取れないようになっている。

ツリなし



上下に ツリが入っていないので  
真ん中の白い部分が取れてしまう。  
真ん中の部分が無いと中まで色がつく。

## 【ステンシルの際のポイント】

- 絵具は筆の先に少量つけ、垂直にポンポンとたたく。

付きすぎはにじみの原因になり、仕上がりが悪くなります（技術評価が下がります）。

濃くはっきりとプリントしたい場合はたたく回数を増やして絵具量を増やす。

厚塗りになると剥落や染料の定着不良につながるので少しずつのせるようにする。

※布目が分からないほど絵具をのせてしまうと定着不良になります。

- 色を変える際は筆をよく洗い、水気をよく切る。

雑巾で水気をしっかりと拭き取り、絵具に水が混ざらないようにしてから使用する。水気が混ざり絵具がにじんでしまう原因となります。

- 絵具のついた筆を放置しない。

樹脂絵具の為、放置すると筆が固まり使えなくなります。また、片付けて筆を洗う時に絵具が取れにくくなります。使い勝手が悪くなったり、片付けに時間もかかったりするので、バケツに水を入れて使わないときは水に付けるか、洗ってしまうこと。特に休憩時間には筆を水に付けておくか洗ってから休憩に行くこと。再開するときは良く水気をふき取ってから作業しましょう。

## 【仕上げ】

- 全てのステンシルが終了したら乾燥させ、アイロンをかける。

アイロンはあて布をして180℃で50秒間しっかりと熱処理をする。

熱処理を怠ると洗濯をしたときや濡れてしまったときに染料がにじんでしまいます。

熱処理がきちんとできていれば染料がきちんと定着し、家庭で洗濯も可能になります。

洗濯するときは裏表にして、ネットに入れて洗濯すると長持ちします。

## 評価について

- 発想点

- ・ツリをうまくデザインに取り込んでいる。
- ・素材やモチーフを基に構図や配色が工夫されている。

- 技能点

- ・にじみなく際まできれいにステンシルができています。
- ・ステンシルの筆を始めとして道具を正しく丁寧に扱うことができる（片付けまで）。
- ・絵具が厚塗りになっていない。
- ・ツリをつけてアイデアをステンシルの型に落とし込むことができる。
- ・美しく仕上げるための工夫や手順を考えることができる。

- 鑑賞点

- ・自己の作品や制作過程を振り返り、工夫してイメージ通りにできた点や改善点などを冷静に見つめ直し、言葉によって記録することができる。
- ・他者の作品を隅々まで観察し、工夫されている点や、自分が今後の制作に生かすことのできる気づきを言葉で記録できる。

## 作品返却及び展示について

工芸の授業作品は、全ての作品を展示し、一般公開されます。工芸科学実習室入口のガラスケースや、本校文化祭、市内小学校展示出品、優秀作品は年度末の教育美術展に出品されることもあります。

外部展示もありますので、発想・構想の際は著作権に違反しないよう留意すること。

## 【休校中にやってくる部分について】

### ① 下絵を描く

どこをどんな色にするのか色の計画も立てる。※著作権に違反しないように注意する!!

ツリの位置をデザインの邪魔にならないように(できればそれとわからないようにするとなお良い)決めて型紙の下描きをする。隣り合わない別の色は一つの型にまとめてよい。隣同士の別の色は別の型を作成する。

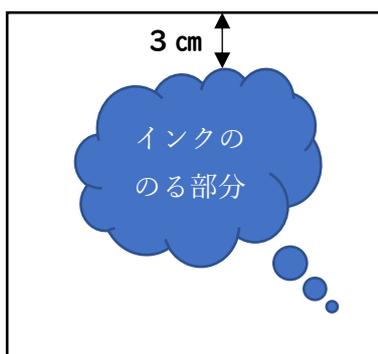
輪郭線も必要な場合には輪郭線の版も必要です。

### ② 型の作成

型紙の下絵の上にクリアホルダーをカットしたものをのせ、インクをのせたい部分をカッターで切り抜く。

カッターを使用するときは、下を傷つけないようにカッターマットなどを敷いて作業すること。

切り抜く型の周りは3 cm位余白を取っておく。



※水色の部分をカッターで切り抜く。  
(白い部分を型として使用します。)

※時間があれば、スポンジなどに絵具を少しつけて紙などにポンポンと軽く叩くと試し摺りができますので、版が重なったとき、きちんと合うかどうか試してみてください。

※出来上がった版は折れたり失くしたりしないようにクリアホルダーなどに入れて保管するとよい。厚紙に挟んでもいいです。トートバックへのステんシルは学校でやりますので、初回授業時に持参してください。